

理解しかねる話

ヨハネ3:1~17 / 李正雨師

宗教を科学の観点によって説明することができるのでしょうか。今まで、多くの試みがありました。宗教を科学的に説明するのは、なかなかうまくいきませんでした。なぜなら、互いに求めることが違うからです。科学は、合理的で理性的です。そして結果論的です。しかし、宗教は抽象的で感性的です。そして結果よりは、きっかけとプロセスを大事にしています。もちろん宗教にとって科学はまったく役に立たなかったのではありません。炭素測定法という科学技術を通して旧約聖書の連帯を測定したり、発掘技術によって歴史遺跡を発掘するなど、科学によって得られたものもあります。しかし、他のもの、創造と進化、救い、永遠の命の問題のような根本的なものは、お互いがあまりにも違う立場をとっています。だから宗教を科学的に説明することも、科学を宗教的に説明することも、非常に難しいことなのです。

今日の福音書の言葉も、このことと同じ文脈で見ることができると思います。今日の福音書は、イエス様とニコデモというファリサイ派の人の会話について書かれています。ニコデモは、イエス様のしるしを見て、イエス様は神様から来られた教師だと思いました。そしてイエス様の教えを聞くために、夜中にイエス様のところを訪ねます。しかし、ニコデモは、イエス様の言葉を全く理解できません。イエス様の言葉が馴染みのないことだからです。イエス様はニコデモに「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない(3節)」と言われます。おそらく、ニコデモにとってこの言葉は理解できない言葉だったでしょう。ユダヤ人、特に律法を遵守しているファリサイ派の人にとって「神の国を見ることはできない」という言葉はあり得ないことでした。皆様もご存知のようにファリサイ派は、ギリシャの文化と異教徒から自分たちの宗教と律法を積極的に守るために立てられた宗派です。それで彼らは、神様の言葉である律法を守るために、律法について多くの研究をし、律法を守っている自分たちは、必ず神の国に行けると信じていました。しかしイエス様は、律法を守ることにではなく、新たに生まれることについて言われます。そして、新たに生まれることによってのみ、神様の国を見ることができると言われます。これは律法を守ることを最善と思ったニコデモにとっては、絶対に理解できない言葉でした。

私は日本と韓国、両国と両国の教会を経験しています。そして各文化による教会の特徴と違いについても多く知ることになりました。韓国の教会と日本の教会の違いを少しだけ申し上げると、まず韓国の教会には、主日の守りという概念があります。今は薄くなりましたが、主日には必ず教会に行くこと。これが韓国教会の特徴です。もちろん、日本の教会も主日の礼拝を守る人が多いのですが、主日の守りについての概念が少し違います。韓国の教会は、まるでユダヤ人が安息日を守るように、主日の礼拝を守ります。主日になると、どんなことがあっても教会に行きますが、家族の集まりがあつたり、会社の仕事があつても教会に行き、さらに体が痛くて礼拝に集中できないのにもかかわらず、教会に行きます。これを素晴らしいと思うかもしれませんが、一方では、この主日の守りという概念によって社会から指弾されたこともあります。コロナがまん延していたとき、主日の礼拝を欠席することができなかった信者たちは、教会に集まり、これによって感染者は急増しました。それでも、ユダヤ人が律法を守るように主日の礼拝は止まらず、このことによって教会が人々に非難されたことがあります。日本の教会から見ると、このようなことは理解しにくいものでしょう。しかし、反対に韓国の教会では、このことを守るのは、当然のことなのです。

今日の福音書のニコデモがイエス様の話を理解できなかったのも、これと似ていると思います。ニコデモにとって律法は、非常に重要なものでした。彼は、律法を通して神の国を見、律法を通して神の国に入ることができると信じていました。しかし、イエス様はそうではないと言われます。新たに生まれなければ、神の国に入れないと言われます。それでニコデモは、イエス様に尋ねます。4節の言葉です。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」ニコデモのこの言葉は、ただイエス様に向けた質問だけではなかったと思います。人が再び母親の胎内に入れられないように、新たに生まれるということは不可能なことではないかという言葉だと思えます。しかし、イエス様は新たに生まれるということが確かにあるということと言われます。5節の言葉です。「はっきり言っ

ておく。だれでも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」

イエス様の答えは、律法のことから離れたことでした。律法による救いではないということがイエス様の答えでした。水と霊によって新たに生まれること。イエス様はこれが神の国を見ることが出来る道、入ることが出来る道だと言われます。そして、6節で少し不思議な言葉を言われます。「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。」この言葉の意味をよく考えてみてください。律法は何のために与えられたものですか。この世で生きている人々と共同体、つまり肉のために与えられたものです。そうすれば、律法は肉で終わるものになるのです。しかし、水と霊、すなわち洗礼と聖霊は、肉のために与えられたものではありません。洗礼によって私たちの罪が赦されること、聖霊が私たちを導くのは、私たちの霊と関係があることです。それでイエス様は、肉のための律法ではなく、霊のための水と聖霊が私たちを神の国に導くと言われているのです。法律は私たちの肉体だけを司ります。洗礼と聖霊は私たちの霊を司るはずで。しかし、律法だけに夢中になったファリサイ派の人、ニコデモは、これを理解できませんでした。それで彼はイエスにこう尋ねました。「どうして、そんなことがありえましょうか(9節)。」

するとイエス様は「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか」と言われます。彼は律法を研究して守る者として、律法というものは、この世にのみ属していることを悟るべきでした。そして律法以外のもの、神様の愛と救い、永遠の命などのことをイスラエルの民に教えるべきでした。しかし、律法に属するものに夢中になってきたニコデモは、このような霊のことについては無知でした。神様が旧約聖書の預言者を通して何を預言しておられるのかについては、大事に思わなかったのです。霊のためにメシアが来られるということ、神様の救いがこの世に臨まれるということが分からなかったのです。それでイエス様は、人は水と霊によって新たに生まれることを言われたのです。洗礼と聖霊だけが私たちに霊について教え、神の国を見ることが出来るようにしてくれるものだからです。

私たちが生きている世の中には、多くのニコデモがいます。彼らは、知識人として尊敬され、人格的にも偉く、社会的にも高い地位の人々です。彼らはこの世をリードして、人々に良い影響を与えます。しかし、彼らはイエスさまに従ったり、信じたりはしません。聖書については良い評価を下し、教会はいい場所だと思っていますが、霊については大きな関心を持っていません。そして教会が霊について話したら、「どうして、そんなことがありえましょうか」と反問します。肉のことを通して神の国を見ようと思っているからです。この世での教会の役割だけを思っているからです。ニコデモのような人々にとって霊に関することは、理解しかねることなのです。それでイエス様は私たちが霊を知ること、水と聖霊によって新たに生まれることを願われます。この世のことを越えて起こっている天のことを見るようにと願っておられます。私たちに向けた救いと永遠の命、肉のことでは分からないことを、私たちが悟ることを願っておられるのです。今日の福音書16～17節にこう書いてあります。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」律法は、又は肉は、私たちが神の国に導くことができず、永遠の命を与えることもできません。それで神様は、私たちのためにイエス・キリストをお遣わしになりました。そして、イエス様によって私たちが救ってくださいました。これは私たちが愛するためであり、この愛は肉ではなく霊に属しているものです。この霊に属している神様の愛と救いを悟る皆様になりますように。この世では理解できないこの話が皆様を真理に導かれますように、主の御名によって祈ります。アーメン